

今支館・分館では

『親睦ボウリング大会』

ー 与良分館 ー

厳寒の二月に、与良区では区民レクリエーションの「親睦ボウリング大会」を開催しています。寒い時期だけに家の中に閉じこもりがちになってしまふことから、思い切つて体を動かすと共に、親睦を図ることを目的に企画したのが始まりで、今ではすっかり定着して、恒例の行事となっているそうです。

年が明けると全戸に回覧で日時等をお知らせし、参加者を募ります。役員は申込み者の顔ぶれを見てグループ分けをするなど、諸々の準備をして当日に備えておられました。大会当日、集合時刻の午後零時半に会場の佐久プラザボウルを訪ねると、既にもう皆さんが集まっています。練習に励んでいました。ゲームスタート前の三十分は練習タイムとしてサービスされているのだそうです。役員の皆さんは

受付から試合後の表彰式の準備に追われていました。

開会セレモニーの後、グループごと各レーンに分かれて試合が始まりました。二ゲームトライする決まりです。場内には二十二レーンありますが、そのうちの十レーンを与良区の皆さんが埋めていました。

時間の経過とともに次第に熱中してきました。ストライクが出ると拍手がおこり、笑顔でハイタッチする光景が見られます。投球ポーズが綺麗な人、思いがけないストライクにほころぶ顔、難しい残ピンを倒してスベアをとり満足気な顔、ガターでがっかりする人等々、見ているこちらにも気持ち伝わってきます。幼児用にはボールが勢いよく転がるようにキャラクターの台があつて、それを使う子どもの姿もまた可愛らしいものでした。

全員のゲーム終了を待つて二階の専用室で表彰式が行われ、結果発表に伴って歓声が



上がるなど、盛り上がりました。役員の配慮で数々の賞が作られ、参加者全員に何らかの賞品が渡るように工夫されていて和みました。

コミュニティテレビこまろの取材も入り、当日の様子が後日テレビで放映されて、話題となったそうです。

編集委員 神津 眞美子

『第三回公民館関係役員研修会』

平成二十七年第三回公民館関係役員研修会が二月二十六日(金)に小諸市公民館において開催されました。

小諸市公民館長より「学習会など皆で集まって話す機会を作って欲しい」とご挨拶があり、続いて事務連絡の後に三つの分館より、地区の紹介や公民館活動について事例発

表をしていただきました。

谷地原分館(南大井支館)の現在の戸数は五百六戸と昭和五十七年の約三倍になっています。各行事には大変大勢の方が参加されています。

「主催者側も参加者も区民の皆さんが楽しんでもらえるように」「小さな子どもから高齢者の方まで誰でも参加できるように」「谷地原区を育つていった子どもたちが「懐かしい故郷」と自慢できるように」と心がけて活動されています。また広報活動も活発に行われ、『やちはらニュース』は行事関係を中心に毎月全戸配布、館報『谷地原だより』を毎年三月に全戸配布をしています。

市分館(三岡支館)では球技大会、夏祭り、蓼科へのハイキング、文化祭、しめ縄や料理教室などが実施され、区民の協力が有り積極的に活動をされているそうです。また、敬老会(支館主催)は三地区(市村・耳取・森山)の七十五歳以上の方五百四十七人を招待して百五十人の出席がありました。今後高齢者の増加による課題も予想されますが「敬老会に行きたい」と言ってもらえるような活動にした

いとおっしゃっていました。

六供分館(中央支館)は中部五区合同事業として、五区合同文化展を相生会館で開催し百点程が展示され約百五十人の来場者がありました。六供公民館事業として介護予防地域交流事業の一つ「ふれあい会食会・お茶会」は、毎回朝早くからご飯やみそ汁などの食事が手作りされて提供されます。また、区民の中より紙芝居や色々なゲームが行われ、ハーマニカや踊りなど特技披露の場にもなっています。今後の課題として、区民の高齢化や公民館運営委員の高齢化をあげていらつしゃいまして、どの分館でも共通の課題と強く感じました。

各分館共に区民の皆様により大勢参加していただき楽しんでもらえるように、知恵と工夫と思いやりを込めて活動していました。

編集委員 平井 孝政

